



アートと人の有り様を模索
「思い」「考え」めぐらす表現の場

Pensee Gallery (パンセギャラリー)

重伝建地区へ向かう本町三丁目の一角に白で統一され、ひときわ洗練されたスペースがある。2013年（平成25）オープンのアートギャラリー、Pensee Gallery（パンセギャラリー）である。「Pensee」とはフランス語で「思い」「考え」の意味。また、オープン当時、パンジーの花が近くの通りに咲いていたことも縁で、パンジーはその響き通り、頭をたれて物思いにふける人の顔のように見えることで「Pensee」を名前の由来に持つ。哲学者フレーズ・パスカルが記した「Pensees」からもヒントを得ており、それらイメージが重なり柔らかくも意思がこもったギャラリー名になっている。

ギャラリーを運営するのは、名付け親でありオーナーの藤井宜人さん。東京、ドイツなどでアートを学び、2008年に故郷である桐生にUターンした。現在、藤井さんは電気工事業を営む家業も手伝い、また以前には大工仕事やリフォーム仕事に携わった経験を持つ。様々な専門技術を持つ藤井さんによって、約1年掛けて完成したパンセギャラリーは、「アーティスト・藤井宜人」の一つの作品とも言える。

約15畳と4畳の2ホールからなるギャラリーは、絵画、彫刻、映像、インスタレーション、写真などの美術品の展示はもちろんのこと、ダンスや歌、ピアノ演奏などのパフォーマンスや各種ワークショップなど多彩な企画に利用できる。1日4,500円から利用可能で、プロのアーティストからアマチュアにまで、手ごろな金額で創作と発表の場を提供する。前橋や高崎など市外からの利用者もあり、桐生にアーティストを呼び込む一つのきっかけにもなっている。

「桐生には思っていたよりもアーティストが多い」と語る藤井さん。パンセギャラリーを通じて、潜在的なアーティスト同士の交流の輪も広がり、新たな企画にも発展している。アートを通じて起こる「Pensee=思い・考え」はこのまちが誇る文化力であり、パンセギャラリーはその中心の一つである。

